

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:平成30年3月8日

事業所名 デファカデミー谷町六丁目校

		チェック項目	はい	どちらとも 言えない	いいえ	工夫している点
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			子ども一人あたり2.47㎡の床面積を確保している。
	2	職員の配置数は適切である	○			児童指導員等の有資格者を常時3人以上、指導スタッフとして配置している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			保護者等の意見を参考に改善、配慮している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			子どもが安心して過ごせるよう遊具等を整備し、心地良く過ごせる環境を作っている
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			ミーティングや課題検討等で意見交換をしている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者向けアンケートを実施し、各項目に対する評価やご意見から業務改善に対応している。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している			○	今回からホームページに公開する予定です。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			随時、デファカデミーの支援等を学ぶための見学者やインターン生が全国から来塾され、第三者の視点で意見や感想を頂き、改善のヒントにしている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			会社全体の研修は実施。外部研修を行った時は、参加職員が現場にフィードバックしている。
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			本人・保護者のニーズを聞き取り、また日々の様子を観察し計画書を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している			○	今後、作成する予定。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			聞き取り調査を行い毎回の指導の指標にしている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			必ず支援計画や指導記録等資料を確認し、目標に沿ったプログラムを提供している。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			スタッフ全員が意見を出し合い、プログラムの立案を行っている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			随時利用者の状況に応じて、プログラムの見直しを行っている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			平日・長期休暇に応じてプログラムを組み立てている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			必ずその日の指導担当を振り分け、リードとサブなどの役割分担を確認している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点を共有している	○			支援終了後にそれぞれ職員間で、その日の支援の振り返りを行うと共に気づいた点を話し合っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			毎回指導記録を記入し、スタッフ全員が閲覧できるようクラウド化している。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			6ヶ月ごとにモニタリング・アセスメントを行い、計画の見直しを行っている。	
関係機関 や保護者 との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			可能な限り児童発達支援管理責任者が情報・意見交換を行っている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		保護者から随時情報提供をして頂いている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		該当者がなく、未実施です。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		該当者がなく、未実施です。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		保護者から随時情報提供をして頂いている。

		チェック項目	はい	どちらとも言えない	いいえ	工夫している点
関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		該当者がなく、未実施です。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			主催研修や講習会など積極的に参加している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			年に数回交流の機会を設けている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			児童発達支援管理責任者が協議会等に参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			保護者と定期的に面談の機会を設けている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		保護者と定期的に面談の機会を設け、その際にお伝えしている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			毎回の契約時に適切に説明し、理解を得られるようにしている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			モニタリング記録得られた情報よりモニタリング報告書を作成し、それに基づいて支援計画を作成していることを説明し、保護者様に計画書の内容を確認していただいた上で同意を得ている
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			随時相談や適切な助言を行っている
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	今後、実施予定。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			契約時に苦情窓口等の説明をしている。また児童発達支援管理責任者を中心に相談及び申し入れ日時は随時対応するように徹底している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月、1ヶ月のプログラム予定表を保護者に発信している。
	38	個人情報の取り扱いに十分注意している	○			個人情報の取り扱いには十分注意しています。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			子どもへの意思疎通に関しては、手話や筆談等のコミュニケーションツールを駆使している。書面での理解が難しい保護者へは直接話をする等の対応をしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	特に実施していない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○		マニュアルの作成はしているが、周知ができていない部分が見られているため積極的に周知していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている			○	座学での研修はあったが、実践はまだのため今後実施予定。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		○		保護者と定期的に面談の機会を設けている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○	該当者がいないため未実施。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		スタッフ間でヒヤリハット事例の共有は行なっているが、書類作成が不十分のため今後、作成予定。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○		虐待を防止する為、適切な支援を行う研修を実施している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		該当者がいないため、説明を行っていない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。